



2016 Sophia Symposium

上智大学アジア人材養成研究センター創立 20 周年記念 国際シンポジウム
「ボロブドゥールからアンコールワットへ ―人材養成による文化復興―」

○日時：2016 年 10 月 22 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分

○会場：上智大学 2 号館 4 階 2－401 室（東京都千代田区紀尾井町 7-1）

今年はアジア人材養成研究センターが、カンボジア現地に開設されて 20 年になります。私もセンターは、「カンボジア人によるアンコール・ワット修復」ができるよう現地において人材養成の手伝いを続けて参りました。そして、カンボジア和平（1993 年）が実現し、同年カンボジア王国政府から要請があり、本学とカンボジア王国アンコール地域遺跡保存整備機構（アプサラ機構）が共同でアンコール・ワット西参道修復工事（第 1 期）にとりかかりました。この修復工事はカンボジア王国の文化復興を先導する契機となり、それが平和構築に繋がる意義深い修復活動でありました。

インドネシアのボロブドゥールは、1973 年から 10 年間をかけて修復が完成しました。アジアで初めての石造伽藍の修復でした。ボロブドゥールではインドネシア人担当者が現場で研修を受けながら修復を行ないました。

お国事情とはいいながら、インドネシアの独立は 1945 年、カンボジアは政治的混乱と内戦が 1993 年まで続きました。遅れてアンコール・ワットの修復がはじまりました。こうした遺跡の修復事業は学術を振興し、地域社会の発展や観光産業につながる波及効果もあります。

今回の国際シンポジウムは、ボロブドゥール遺跡の修復に参画されたマウラナ・イブラヒム先生をお招きいたし、修復後約 35 年を経た現在の遺跡保存とその維持活動についてご高見を伺うものです。三輪悟研究員からは、カンボジア王国アプサラ機構との共同工事の修復計画について発表いただきます。パネル・ディスカッションでは建築構造力学の平山善吉先生、アンコール・ワット西参道の考古学調査を実施してこられた丸井雅子先生、そして西参道修復工事の三輪悟研究員、また、かねてから西参道修復に参画してきたカンボジア人 Dr. ニム・ソティーブン研究員には、カンボジア人の立場から意見を伺います。司会は所長の石澤です。皆様のご参加をお待ちしております。

2016 年 10 月吉日

上智大学教授

上智大学アジア人材養成研究センター所長

石澤良昭

○プログラム

13:30～13:35(5 分)

ご挨拶

上智学院理事長、イエズス会高等教育担当理事 高祖 敏明

13:35～13:50(15 分)

アジアの現場に出かけて 20 年-上智大学の国際協力-

上智大学アジア人材養成研究センター所長 石澤良昭

13:50～14:35(45 分)

基調講演①

「ボロブドゥール修復はインドネシア人の手で(1975-1983)」

マウラナ・アブドゥラヒム・イブラヒム(Maulana Abdulrahim Ibrahim)氏

インドネシア教育文化省文化総局 元上級技官(ボロブドゥール保存官)

<休憩>

14:45～15:30(45 分)

基調講演②

「アンコール・ワット西参道修復工事(第 2 期)の人材養成について」

上智大学アジア人材養成研究センター研究員 三輪 悟

15:30～16:30(60 分)

パネル・ディスカッション

平山善吉(アンコール・ワット西参道技術交流研修委員会副委員長、
日本大学名誉教授／建築構造力学)

丸井雅子(上智大学総合グローバル学部教授／アジア考古学)

三輪 悟(上智大学アジア人材養成研究センター研究員／アンコール建築学)

ニム・ソティーン(Nhim Sotheavin、上智大学アジア人材養成研究センター研究員
／カンボジア中世史)

司会 石澤良昭

○日時:2016 年 10 月 22 日(土)13 時 30 分～16 時 30 分

○会場:上智大学2号館4階 2-401室(東京都千代田区紀尾井町 7-1)

JR／地下鉄四谷駅徒歩5分

○言語:英語(逐次通訳あり)／日本語

○定員:200名(入場無料:事前申込不要、先着順)

○主催:上智大学アジア人材養成研究センター

○後援:インドネシア共和国大使館、一般財団法人日本インドネシア協会

国際機関日本アセアンセンター、朝日新聞東京総局、一般社団法人共同通信社、
読売新聞東京本社・読売教育ネットワーク、ANAホールディングス株式会社、三菱
商事株式会社 (順不同)

○問い合わせ先:上智大学アジア人材養成研究センター(担当:萱間かやま)

Tel: 03-3238-4136 / Fax: 03-3238-4138 Email: sacrhd@cl.sophia.ac.jp



上智大学の国際協力モデル

—アジア人材養成研究センターのアジア貢献活動—

「カンボジア人の手によるアンコール・ワット修復」掲げて25年

内戦により遺跡保存官多数が行方不明に。私たちは戦禍にあえぐカンボジア人たちのところへ。上智大学は現地に出かけて人材養成活動を開始（1989年）。「国際協力とは人と人との協力」であり、大方針は国境のない信頼関係の構築につないでいく。



アンコール・ワット西参道工事を通じて自立を支援—国際奉仕活動（ソフィア・ミッション）—

西参道工事では往時の伝統工法を復元し、第1工区工事をカンボジア人保存官の人材養成をしながら竣工（1996–2007）。第2工区・3工区は2016年から着工する（起工式：2016年5月）。



私たちはカンボジアの「知」の遺産に学ぶ

地域の住民、小・中学生生徒に対する文化遺産啓蒙教育は、2008年から開始。みなさんをアンコール・ワット、遺跡発掘現場、シハヌーク博物館に招き、住民参加型保存修復を目指す。そして、アンコール王朝（9–15世紀）が「帝国」として君臨したカンボジア史を学ぶ。



遺跡修復から文化復興へ、そして平和構築へ

王立芸術大学学生の現場実習は1991年からはじまり、現在まで52回に及ぶ。1996年上智大学海外施設のアジア人材養成研究センターをカンボジア現地に建設。人材養成活動に寄り添う。2001年考古発掘の時に埋納坑から仏像274体を発掘。アンコール王朝史を書き換える世紀の大発見となる（国際交流基金賞受賞）。実習学生の中から幹部候補生を上智大学大学院に留学生として受け入れ、学位取得者17名を輩出、全員母国で活躍中。人材養成はカンボジア人による「修復」に向けて前進中。



アジア人材養成研究センターの活動

- | | |
|-------|--|
| 1979年 | 上智大学長 J・ピタウが新宿駅頭で「インドシナ難民に愛の手を」募金開始 |
| 1980年 | 内戦中アンコール・ワット破壊状況調査、西側専門家として石澤良昭が日本テレビ取材班に同行、世界に向けてS.O.Sを発信 |
| 1991年 | 王立芸術大学学生の遺跡現場実習開始。現在まで52回に及ぶ |
| 1996年 | アンコール・ワット西参道工事（第1工区）開始（～2007年完成）（2001年小淵恵三、フン・セン両国首相が現場視察） |
| 1996年 | 上智大学アジア人材養成研究センター開所式／上智大学長大谷啓治出席 |
| 2001年 | バンテアイ・クティ遺跡地下から仏像274体を発掘。アンコール王朝史を書き換える大発見となる |
| 2007年 | 274体の仏像を展示するシハヌーク・イオン博物館完成 |
| 2011年 | アンコール文化遺産教育センター開設 |
| 2014年 | 日本政府 開発援助（ODA）の機材供与（9,400万円相当） |
| 2016年 | アンコール・ワット西参道修復工事（第2工区・3工区）開始 |